

A 空気環境

屋内作業では、空気環境における浮遊粉じんや臭気等について、労働者が不快と感じることのないよう維持管理されるよう必要な措置を講ずることとし、必要に応じ作業場内における喫煙場所を指定する等の喫煙対策を講ずること。また、浮遊粉じんや臭気等が常態的に発生している屋外作業では、これらの発散を抑制するために必要な措置を講ずることが望ましいこと。

①屋内作業の空気環境



▲有機溶剤の一次置き場においてフードの開口部にビニールカーテンをかけることにより解消した。



▲衛生陶器の下地の吹き付け作業を密閉されたブース内で自動化し、下地塗料の拡散をなくした。



▲工場内の臭気などを除去するために有圧換気扇を設置した。

②受動喫煙防止対策

喫煙による健康への影響に関する社会的関心が高まる中で、受動喫煙(自らの意思とは関係なく環境中のたばこの煙を吸引すること)による非喫煙者の健康への影響が報告され、職場における労働者の健康確保や快適な職場環境の形成促進の観点から、受動喫煙を防止するための対策が求められています。

受動喫煙を防止する方法には、事業場の敷地内または建物内全体を禁煙とする「全面禁煙」と喫煙室等でのみ喫煙を可能とする「空間分煙」があります。全面禁煙は空間分煙に比べ、より効果的に低コストで受動喫煙を防止することができます。空間分煙により対策を講ずる場合は、「職場における喫煙対策のためのガイドライン」に基づき、たばこの煙が漏れない喫煙室の設置など、確実な受動喫煙防止措置が必要です。ガイドラインに基づく喫煙室の設置等の十分な対応が困難な場合には全面禁煙による対策の実施が勧奨されています。

🍀 全面禁煙の実施



▲敷地内・屋内とも常時全面禁煙の実施



▲屋内は全面禁煙とし、屋外に喫煙所を設置



▲ 屋内は全面禁煙とし、屋外の樹木周囲に喫煙場所を設置

◆ 全面禁煙のメリット ◆

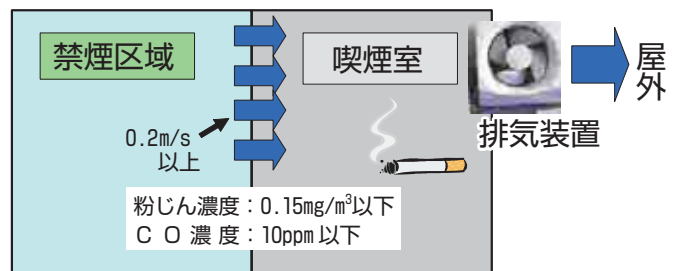
全面禁煙は受動喫煙防止に最も効果的な方法です。

- ★ たばこの煙やにおいのない、空気環境がきれいな職場になります。
- ★ 禁煙者が増加し、喫煙者の喫煙本数も減少し、休業率の減少、仕事の効率が上がるなどの効果が期待できます。
- ★ 費用がかかりません。(喫煙室の設置、維持管理、空調の熱損失などの費用が不要)
- ★ 全面禁煙に取り組んでいることで会社のイメージの向上につながります。

🌸 職場における喫煙対策のためのガイドラインに基づく対策

職場における喫煙対策のためのガイドラインのポイント

- 喫煙対策は、労働衛生管理の一環として職場で組織的に取り組み、全員参加の下に確実に推進すること。
- 喫煙室等の設置等を行うこと。喫煙室等には、たばこの煙が拡散する前に吸引して屋外に排出する方式の喫煙対策機器を設置すること。
- 職場の空気環境の測定を行い、浮遊粉じんの濃度を 0.15 mg/m^3 以下及び一酸化炭素の濃度を 10 ppm 以下とすること。また、非喫煙場所と喫煙室等との境界において喫煙室等へ向かう気流の風速を 0.2 m/s 以上とすること。
- 管理者や労働者に対して教育や相談を行い、喫煙対策に対する意識の高揚を図ること。
- 定期的に喫煙対策の推進状況及び効果を評価すること。



▲ ガイドラインによる施設・設備、空気環境のポイント

▽ 換気扇を4台設置して十分な排気量を確保した喫煙室



▲ 空気環境の測定 (気流の風速)

▲ 局所排気装置方式のフードを設置した喫煙室

B

温熱条件

屋内作業場においては作業の態様、季節等に応じて温度、湿度等の温熱条件を適切な状態に保つこと。また、屋外作業については、夏季及び冬季における外気温等の影響を緩和するための措置を講ずることが望ましいこと。



▲ 温熱対策としてスポットクーラーを設置した。



▲ 熱を発する工程を囲い熱気をダクトで外に排出するようにした。



▲ 工場内に入り込む西日対策として、市販の「すだれ」を利用して、見た目にも涼しさを演出



▲ 夏季の酷暑を冷暖房設備を設けることにより作業効率の改善を図った。



▲ 夏場の熱中症対策として、冷やしオシボリの配付と冷水機、塩、製氷機を設置した。

C 視環境

作業に適した照度を確保するとともに、視野内に適度な輝度対比や不快なグレアが生じないように必要な措置を講ずること。また、屋内作業場については、採光、色彩環境、光源の性質などにも配慮した措置を講ずることが望ましいこと。



▲事務所の明るさを十分確保し、照明にグレア防止パネルを取り付けた。



▲手元作業をしやすくするため補助照明として移動式のスポットライトを利用できるようにした。



▲縦型の窓で採光性を高め内装も明るい色を採用し十分な明るさを確保した。



▲暗くなりがちな工場内に天窓を設け自然光を取り入れるようにした。



▲天井の高い倉庫の壁面に補助照明を設置して作業者の眼性疲労の軽減を図った。

D 音環境

事務所については、外部からの騒音を有効に遮蔽する措置を講ずるとともに、事務所内のOA機器については低騒音機器の採用等により低騒音化を図ること。また、事務所を除く屋内作業についても、作業場内の騒音源となる機械設備について遮音材で覆うこと等により騒音の抑制を図ること。



◀ エアードライバーでは騒音レベルが90デシベルあったが電気ドライバーの導入により72デシベルに騒音の低減化を図った。



◀ コンプレッサーを作業場所と別室に配置し、低騒音型コンプレッサー(スクルータイプ)を導入した。



▶ 高速プレス機を遮音材を使った二重防音ブースで囲った。



▶ プリンターを一箇所に集め防音カバーで囲い印刷時の騒音を軽減した。



◀ ▶ 空気輸送ブロワーの作動音、配管中の輸送物の摩擦音を防音壁と消音装置の設置により軽減した。



E

作業空間等

作業空間や通路等の適切な確保を図ること。



◀ ▲ 事務所の床に4cmのフロアパレットを敷き詰めて配線を格納さらにカーペットを敷くことで断熱効果も生まれ、冷暖房効率がよくなった。



◀ ▲ 通路の曲がり角などの死角になる場所にミラーを取り付け、通路での安全確保に努めた。



▲ 工場内の人と荷物の通路を区別し、わかりやすいように床を色分けした。



▲ トラックなどの車両の搬出入口に敷鉄板を敷設して発じんが少なくなり、車両の出入りが容易となった。